



<教育目標>

あたたかい心 ゆたかな知性 たくましい身体

高き希望に（第五中学校だより）

平成 30 年 4 月 10 日発行

No. 1 校長 矢口 仁

出会いを大切に！ — 新しい生活のなかで —

校長 矢口 仁

そのときの出逢いが

人生を根底から変えることがある

よき出逢いを 相田 みつを



色とりどりの花が咲き誇り、本格的な春がやってきました。そんな中、97 名の新入生を迎え、全校生徒 303 名で平成 30 年度が始まりました。クラスメート・教室・担任……すべて新しい出会いのなかで、気持ちを新たに、高き希望をもち、具体的な目標を胸によいスタートを切ってほしいと思います。

さて、私は中学生の時、バスケット部に所属していました。最後の大会で体調を崩し、3 分しか試合に出られず、不完全燃焼でした。そのため、高校でバスケットボールにもう一度挑戦したいと考え、強豪の私立校か普通の都立校か進路で悩みました。

父からは「スポーツの世界で生きていけるほど、自分に力があるのか？自分の歩むべき道をよく考えろ。」と言われ、結局、都立高校へ進学しました。

私の入学と同時に、20 代後半のバスケットボール専門の若い体育の先生がその高校に着任しました。厳しく情熱的な先生で、木曜日以外は毎日練習がありました。土・日曜は練習か練習試合です。中学校の練習の何倍も厳しいものでした。

その先生の方針は「チームワークとは、ただ協力しあうものではない。まず、自分の力を高め、チーム内で自分の役割を果たせるようになれ。その上で、足りないところを補いあうのが本当のチームワークだ。」というものでした。

その考え方が浸透し、入学当時は一回戦負けのチームでしたが、だんだんと力をつけ始めました。2 年秋の新人戦ではベスト 16 まで進むことができました。3 年生の最後のインターハイ予選、偶然にも進学先として悩んだ私立高校とベスト 8 をかけて対戦しました。最後まで大接戦でしたが、結局 3 点差で負けてしまいました。

悔しくてたまりませんでしたでしたが、完全燃焼した気持ちになることができました。

その顧問の先生は、厳しかったけれど、生徒に対する愛情が強く感じられました。大学受験に失敗し、浪人中に進路を考えるなか、顧問の先生のようにになりたいという気持ちになっていきました。文学部へ進み、教職課程を履修し、教師の道を選んだのは、その体育の先生との出会いがあったからこそだと思っています。

さまざまな出会いのある 4 月、新たな出会いを大切に……と願っています。